

## 鴨川版CCRC推進会議第2回会議 会議録

1 日 時 平成 28 年 11 月 11 日（金） 午後 1 時 30 分から 3 時 15 分まで

2 場 所 鴨川市役所本庁舎 7 階会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

No.	所属・職名	氏 名	備 考
1	医療法人社団宏和会エビハラ病院 理事	海老原 正明	1号委員
2	鴨川市立国保病院 院長	林 宗寛	〃
3	社会福祉法人鴨川市社会福祉協議会 常務理事	速水 一郎	〃
4	鴨川市介護保険運営協議会 会長	榎本 豊	〃
5	鴨川市商工会 副会長	島田 誠一	2号委員
6	館山公共職業安定所 所長	宮内 清則	〃
7	公益社団法人鴨川市シルバー人材センター 会長	小島 弘嗣	〃
8	学校法人城西大学城西国際大学観光学部 学部長	渡辺 淳一	〃
9	学校法人鉄蕉館亀田医療大学 学長	橋本 裕二	2号委員 委員長
10	総合型地域スポーツクラブ鴨川オーシャンスポーツ クラブ 会長	山下 洋介	3号委員
11	鴨川ふるさと会 顧問	石川 忠男	3号委員 副委員長
12	一般社団法人鴨川青年会議所 理事長	鎌田 浩茂	3号委員
13	特定非営利活動法人鴨川現代バレエ団 理事長 鴨川バレエアカデミー 代表	長村 順子	〃
14	株式会社千葉銀行鴨川支店 支店長	石渡 雄悟	〃

#### ※欠席委員

1	社会福祉法人太陽会 理事長	亀田 信介	1号委員
---	------------------	-------	------

2	鴨川市農林業体験交流協会 事務局長	清水 宏	2号委員
3	特定非営利活動法人大山千枚田保存会 事務局長	浅田 大輔	3号委員

(順不同、敬称略)

## (2) 市

No.	所属・職名	氏名	備考
1	市長	長谷川 孝夫	
2	参事	岩田 知也	
3	企画政策課 課長	平川 潔	
4	健康推進課 課長	牛村 隆一	
5	福祉課 課長補佐	加藤 道明	
6	子ども支援課 課長	羽田 幸弘	
7	農水商工課 都市農村交流係 係長	田中 仁之	
8	観光課 課長補佐	小柴 則明	
9	都市建設課 課長	野村 敏弘	
10	生涯学習課 課長補佐	入江 裕一	
11	スポーツ振興課 課長補佐	鈴木 圭一郎	
12	国保病院 事務長	山口 幸宏	
13	企画政策課 課長補佐	大久保 孝雄	
14	企画政策課 地域戦略係 係長	滝口 俊孝	
15	企画政策課 地域戦略係 主事	小粒 将一	

## (3) 鴨川版CCRC構想等策定支援業務委託事業者

株式会社三菱総合研究所 田村 隆彦、濱松 由莉

エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社 和田 英子 計3名

## (4) 傍聴者

計2名

## 4 配布資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・席次表
- ・出席者名簿
- ・資料1 鴨川版CCRC移住意向アンケート調査について
- ・資料2 鴨川版CCRCの取組み案について
- ・鴨川版CCRC推進会議第1回会議会議録
- ・鴨川市・東洋大学交流事業講演会チラシ（参考配布）

## 5 会議内容

### (1) 開会（午後1時30分）

### (2) あいさつ

#### ① 市長

（要旨）

鴨川版CCRCは、本市の10年後、20年後を担う大きなプロジェクトであると考えており、民・官一緒になって推進するための体制づくりの一環として、本会議を位置付けている。そのため、幅広い分野からご審議をいただければ大変ありがたい。

前回の第1回会議では、株式会社三菱総合研究所の松田氏から、「ピンチをチャンスに変える生涯活躍のまちづくり」のお話をいただいたが、日本版CCRC、そして鴨川版CCRCの求める方向性について示唆をいただいたものと考えている。特に、シニアはコストではなく、地域の担い手として捉えるべきであり、そして介護が必要な状態にならずに生涯にわたって活躍できる社会、環境を整えることが必要であること、そしてシニアの受入れと活躍が医療・介護費を上回る経済効果をもたらし、若年層の転出抑制にも結びついていくとの指摘は、大変ありがたく受け止めている。

本年1月に策定した本市人口ビジョンでは、25年後の2040年には、移住・定住による流入人口の増加と出生率の向上をもって、約32,000人の人口を維持する目標を掲げている。本市におけるCCRCの形成は、人口の維持、ひいては地方創生を図る上で極めて重要な鍵になる重要なプロジェクトである。

約5年前に「プラチナタウン構想」を掲げた折、鴨川ふるさと会会長であった石川副委員長からプラチナタウン構想についての意見、指導をいただいた。小説「プラチナタウン」を書かれた 榆 周平 先生にもお会いし、様々な示唆をいただいた。CCRCという横文字の名称になっているが、意を同じくするものと考えている。

多くの人口の流れを地方にという視点を持ち、本市における今後の新たなまちづくりの行方を皆様に創造していただければありがたい。

## ② 委員長

(要旨)

本日の会議では、東京都、鴨川市以外の千葉県、神奈川県、埼玉県の1都3県の住民を対象とした鴨川市への移住ニーズを把握するためのアンケート調査の結果について事務局から報告いただき、その結果に基づいて鴨川版CCRCの方向性を検証し、取り組むべき事業案について意見をいただく形で進めていきたい。

12月中の開催を予定している第3回会議では、構想の素案、具体案を議題とする予定であるので、思うところを遠慮なく発言していただくようお願いする。

## (3) 議事

鴨川版CCRC推進会議設置要綱第5条第2項の規定に基づき会議が成立したことについて事務局から報告した後、同条第1項の規定に基づき、橋本委員長が議長として議事を進行した。

冒頭、議長から、名簿順に速水 一郎 委員 及び 榎本 豊 委員を会議録署名委員として指名した後、議事に入った。

### ① 鴨川版CCRC移住意向アンケート調査について

資料1「鴨川版CCRC移住意向アンケート調査について」により、(株)三菱総合研究所 田村氏から説明した。

出席者の主な発言は次のとおり。

(委員長)

スクリーニング調査の25,487名について、「鴨川市にゆかりのある人520名」、「鴨川市移住を検討している人たち514名」との関係はどうなっているのか。

(濱松氏)

本調査では最初にスクリーニング調査を実施している。これは、より詳しい質問をする本調査の回答者として1,000名程度を抽出するためのものである。最初に25,000名ほどを回答者として抽出し、その中で鴨川市に縁ゆかりのある方や、鴨川市に移住を検討している方がどのくらいいるかを抽出し、その結果をもとに、より詳しい設問の本調査に回答いただいている。

(榎本委員)

鴨川市の介護費用は県内でトップクラスになっている。鴨川版CCRCをつくるとなると、何年か後には介護が必要となる退職前後の方の移住が想定されるが、介護人材が果たしてそれだけ地域にいるのかという疑問がある。できれば若者が移住してくれれば申し分なく、鴨川市から都心に長時間をかけて通っている方も結構いる。高齢者ばかりが増えてしまうと、何年か後には介護保険等に影響してくるため、元気な方に来てもらうような政策をお願いしたい。

鴨川に来てもらおうとする場合、今後の環境づくりについての方針がある程度見えてこない、いい人は来ないと思う。津波等の災害を含め、安全面もPRできるような対策が必要。鴨川で長く安心して暮らせる地域社会づくりに参画するような、そういう意気を持った人たちに来てもらえればいいと思う。

医療の観点からは、市民だけではなく、勝浦市や南房総市といった周辺の方たちも市内の病院に期待している現状がある。鴨川の特質で人を呼べるような環境づくりをしていくことが将来的には大事なことと思うので、そういうものを踏まえ、鴨川が住みやすい地域になるようなことを提案していただきたいと思う。

(事務局)

若い人にも来ていただきたいというのは、どの自治体でも共通する課題だが、さらに少し高齢の方にも来ていただくことで地域の消費を増やす、あるいは医療・介護のサービスを提供していくことで若者の雇用の場が増えるという面もあると思う。高齢の方にも若い方にも魅力のあるような環境づくりをあわせて行っていく必要があると思うので、考慮しながら進めていきたい。

(渡辺委員)

アンケート調査に関して、年齢層別にタイプを想定しないといけなのではないか。CCRCの主要ターゲットとなるであろうリタイア後の70歳以上が何人いるかわからない。もう一つ、現実を把握する意味においては、収入と年齢層をクロス集計し、その分類別でどのようなニーズがあるかを明らかにした上で、ストーリーを考えるべきではないか。本アンケート調査がウェブ上で実施されているなら、ウェブやインターネットを使えない層が恐らく抜けてしまっていることを考慮して考えないといけない。なので、このデータの使い方の有効性がどの程度あるかということが問われているように思う。

(副委員長)

このアンケートを通じて感じたことは、私たちが認識している以上に鴨川市があまり知られていないということである。そういう状況でCCRCを進めていくのであれば、鴨川市の欠点をしっかり論議しておかなければならないのではと思う。

CCRCの主要ターゲットは高齢者であるが、若い人たちに鴨川市に来てもらわなければ活性化しないので、子育て問題等は大変重要と思う。それから、いわゆる商社マンや大手企業の転勤族がターゲットになると思っている。ターゲットをどこに設定するかが重要なポイントであると思う。そして、女性の理解が一番のネックとも思っている。夫はすぐに移住したいが、妻は行きたくないという夫婦。そういった、東京で生まれて東京で育ったというわけではなく、お互い地方出身だが、現在の居住地が一番よいと思ってしまう人たちにどういうふうに理解をしていただく、メリットを知っていただくかということを最初にしないといけないと思うので、これからの論議の中で、鴨川市がPRできるようなもの

をつくと同時に、大きくPRしていく必要があるのではないか。

(委員長)

医療・介護について、全国的に医師不足の状況にある中で、安房地区では10年前と比べて医師が増えている。こうした点は、ちゃんと宣伝していく必要があると思われる。

## ② 鴨川版CCRCの取組み案について

資料2「鴨川版CCRCの取組み案について」により、(株)三菱総合研究所 田村氏から説明した。

出席者の主な発言は次のとおり。

(渡辺委員)

長く住みたい方の希望としては一軒家ということだが、鴨川市には空き家がどの程度あるのか。

(都市建設課長)

現在、市内にある空き家については使える空き家、使えない空き家、危険な空き家等に分類しながら調査中で、今年度末には集計できる予定である。

(渡辺委員)

アンケート調査から、この取組み案になった理屈がわからない。沿岸部の都市機能と山間部を二つに分けて、それで多世代共生コミュニティという形にしているが、これはもともとそういう発想があったのか。アンケート結果をもう少し踏まえた提言等がほしい。先ほど申し上げたように、年齢層別のストーリーをつかって、そのストーリーの結果で、取組み案を作るべきである。

(山下委員)

知人の中には、もともと東京で事業を行っていて、その事業を子どもに譲って移住してきた人がいる。彼になぜ鴨川へ来たのかと聞いたところ、銚子から南房総市までいろいろなところを探していたとき、市内に住んでいる友人から、ここに来て非常によかったという話を聞いたからであるという。今回のアンケートは希望者に対する調査だが、5年、10年住み続けている方から鴨川のいいところや悪いところを伺って、それも引き合いに出して考えることが大事だと思う。できれば住んでいる方を対象にした調査を実施して、前向きに検討していただきたい。

(田村氏)

今回のアンケート調査は、主に、市外からどのくらい関心を持っていただいているかを聞いた調査である。以前に鴨川市で実施された市民アンケート等の結果も踏まえて、市民の意見から見た、CCRCをどうしたらいいかというところも追加して検討させていただきたい。

(鎌田委員)

アンケート結果を見ると、やはり鴨川はリゾート、レジャー、観光地のイメージが強いようだが、それ以外に望まれていることが医療であり、これは鴨川の強みだと思うので、リゾートと医療に絞って、前面に出してはどうか。間口を狭めて、何かに絞って売り出し、実際に来ていただいたら何でもあるとわかり、意外と住み心地がよいと思ってもらえる。何かに特化していくほうがよいと思う。そして、高齢者の方を集めることがゴールではなく、次世代につなぐということがゴールと思うので、できれば若い世代たちとどんどん交流を図ってほしいと思う。できれば、最終的には子どもや若者を増やしていけるような仕組みづくりを考えていく必要があると思う。

(海老原委員)

アンケート調査の間2と間3の移住の形態に関する設問では、「夫婦での移住」が約5割から6割、また、移住の希望時期については「自分の結婚・再婚を機に」とあるのが気になった。取組み案として、例えば移住する人を対象とした婚活を実施することで、それが一つのコミュニケーションや後援にもなる。アンケート結果を見る限り、パートナー優先というか、夫婦で移住したいということを考えれば、鴨川市でパートナーを探してもらおうといった発想もよいのではないかと。

(副委員長)

ふるさと大使の名刺を持って鴨川市のPRをしているが、「鴨川版CCRCをつくる」と言っても誰もわからない。わかりやすい名称も必要と思う。そして一番の心配は、市民から「お年寄りが来たら費用ばかりかかってしまうのではないかと」、「年寄りのまちをつくるのか」という意見が出てくるのではないかとということ。そうではなく、こういう大きな取組みであるということを市民の皆様にはわかってもらわないといけない。そのためにも、先行事例の視察や講演会を実施して、本会議の委員が皆同じレベルで素案づくりの論議ができるようにすべきではないかと。

(島田委員)

先日、東京で仕事をしている友人から相談を受けた。鴨川の実家が10年以上空き家で、さらに2,000㎡ほどの畑があるが、その管理に非常に苦慮しており、どうしたらよいかということだった。空き家を貸して、畑も農園として貸してはどうかと話をしたが、それ以外にも後継者がいなくて農地を持て余している人がたくさんいる。山下委員からも話があったように、市民のニーズも調査をして、市民としてどんな形で鴨川版CCRCに関わっていくかを調査した上で、移住したい側、受け入れる側のミスマッチがないようにすべきと思う。現実的には、農村部はあと10年も経ったら後継者が不在で、耕作する人がいなくなってしまうような状況なので、そういったことも考慮して進めたほうがよいと思う。

(速水委員)

アンケート結果を見ると、地域のコミュニティづくりということが出ているが、移住される方にとって一番の大きな課題は、地域の中に受け入れるかどうか。ま

た、次の段階の話とは思うが、社会福祉法人鴨川市社会福祉協議会では13の子ども会、地区社協が組織されている。そこでも子育てや高齢者の問題に取り組んでいるので、地域のコミュニティづくりで力になれるところもあると思う。

また、私自身もCCRCのイメージが明確でない。皆さんはCCRCのイメージを持っているかもしれないが、やはり鴨川版CCRCを考えるにあたっては、一枚岩ということも必要と思われるので、考慮していただきたい

### ③ その他

事務局から次の事項を説明した。

- ・次回会議の日程については、調整の上で改めて連絡すること
- ・次回会議も、受託事業者から資料送付を行う予定であること
- ・会議録は整い次第、速水委員、榎本委員に確認を願うこと
- ・高齢者の雇用意向に関するアンケート調査及びヒアリング調査への協力を求めること
- ・鴨川市・東洋大学交流事業講演会の紹介

その他、出席者から次のとおり発言があった。

(副委員長)

次回会議で素案を示すとのことだが、その際に意見を集約し、4回目にまとめるという流れでよいか、確認したい。

(事務局)

次回、第3回会議で素案を示し、第4回会議で確認、了承いただく予定である。したがって、実質的には、次回の会議が意見をいただく最後の機会となる見込みである。

(副委員長)

この鴨川版CCRC構想には何か一つの答えがすでにあって、そこへ持っていくようにうがった見方をしてしまう。亀田総合病院が関連事業の実施意向をもっているということは新聞等にも書かれているが、本当にそうなるのだとしたら、一強多弱になってしまいかねず、医療関係の産業がその中で本当に育成されていくのかという点に懸念がある。そういう疑念が沸かないよう、市を挙げて取り組むのが鴨川版CCRCであると思っており、名称も大切な要素を持っている。

(委員長)

この際に、他の意見も伺いたい。

(長村委員)

スポーツだけではなく、芸術分野や農業分野といったものを自分の生活の中に



取り入れながら暮らしたいという要望は、あると思う。大山千枚田で活動してきたが、以前は定年退職された棚田オーナーがほとんどだったものの、現在は若いファミリーが多い。そういったことに日々触れていると、やはり移住された方たちは何か楽しみ、遊ぶだけでは物足りないと思われる。また、住み続けるほど、誰かの役に立ちたい、自分を活かす仕事をつくっていきたいといった思いのある方々が多くなるのではないかと思う。4月に開設したレストランに訪れる方々と毎日接しているが、40～60代の女性がたくさんいらして、とても気持ちのよいところだから泊まりたいという方も多い。そういう方たちが簡易宿泊できて農業体験をしたり、1日や2日ではできないことを学ぶことのできる塾のようなものなど、二度、三度と鴨川に来ていただける仕組みがあるとよいと思う。

(委員長)

ほかに意見やお考えがある方は、事務局に意見を提出していただきたい。

(事務局)

11月中には意見を提出していただきたい。

(宮内委員)

高齢者雇用意向調査について、調査様式を見せていただきたい。

(事務局)

会議後に提示する。

#### (4) 閉会 (午後3時5分)

以上

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により、鴨川版  
C C R C 推進会議第2回会議における会議録の内容について確認します。

平成28年11月30日

速水 一郎

榎本 豊